

「真の県民銀行」をめざして



みなと銀行 代表取締役社長

持丸 秀樹

巻頭言

2026年を迎え、兵庫県では三宮やウオーターフロントの再開発が本格化し、神戸空港の国際線就航など、地域の魅力は一層高まっています。こうした動きに伴い、地域経済は新たな成長局面に入りつつあり、私も地域金融機関として果たすべき役割はますます重要になっています。

このような環境変化の中、みなと銀行は「真の県民銀行」を追求し続けます。兵庫県全域をカバーする地銀として、地域経済の発展に寄与し、お客さまにとって最も身近で頼れる存在であり続けることを目指します。りそなグループの機能を最大限に活用し、金融サービスに加え、幅広いソリューションを提供する「金融+」の発想で、地域の課題解決に向けた取り組みを加速させます。

具体的には、地域企業の持続的な成長を支えるため、事業承継や人財不足といった地域課題に積極的に取り組むほか、家業の後継者に特化した事業創出プログラム「SENTIN」、採用力強化をサポートする「みなと採用応援パック」など、金融以外の領域での取り組みを強化しています。例えば、採用応援パックでは、企業研究会や交流スペース「Mカフェ」、企業PRサイトなどを月当たり一定額で提供し、すでに多くの企業と学生が参加しています。これらの取り組みは、地域企業の人財確保を応援し、持続可能な成長を後押しするものです。

また、スタートアップ支援にも注力しています。世界的に評価される研究成果を事業化する企業など、大学発ベンチャーや地域発の革新的企業への支援を積み重ねてきました。2025年4月に包

括連携協定を締結した神戸大学をはじめ、地域の大学との産学協創など、金融面と地域連携などの非金融面双方から地域発のイノベーションを支え、新産業の創出に貢献しています。

さらに、地域企業の海外展開を後押しする取り組みにも力を入れています。りそなグループの広域な海外ネットワークを活用し、ロスアンゼルスやハノイなどに設置している駐在員事務所を通じて、現地情報の提供や商談のコーディネートを行うほか、JBI C協調融資や現地通貨建て融資など、金融面でのサポートを強化しています。加えて、海外ビジネスに関する専門知識や人財育成にも取り組んでいます。こうした金融面と非金融面双方からのサポートにより、地域企業がグローバル市場で挑戦する力を高めています。

昨今、金融環境は大きく変化しています。日本銀行の政策金利変更により「金利ある世界」が定着し、競争は激化していますが、当社は単なる金利競争ではなく、利便性と付加価値で選ばれる銀行を目指します。システムリニューアルを経て、業務効率化とサービス高度化を進めるとともに、生成AIも活用した新たなお客さま体験の提供に挑戦します。

私たちは、兵庫県の経済とともに成長し、地域に必要とされる銀行であり続けるため、挑戦を続けます。新しい技術を積極的に取り入れ、地域企業とともに未来を創造する——その決意を胸に、2026年も歩みを進めてまいります。今後とも、皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。